

中学校 第2学年 音楽科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日 (〇)
 〇校時
 対 象 第 2 学年 〇名
 学校名 〇〇〇〇中学校
 授業者 〇〇〇〇

1 題材名 「和音の響きを感じ取り、音の重なりを味わって旋律を作ろう」

2 題材の目標

- (1) 和音の響きや旋律の重なりに関心を持ち、旋律を作る学習に主体的に取り組む。
- (2) リズム・パターン、旋律や音のつながりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように旋律を作るかについて思いや意図をもつ。
- (3) リズム・パターン、旋律や音のつながりを生かした音楽表現をするために、必要な音の組み合わせ方、記譜の仕方の技能を身に付けて旋律を作る。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①和音の響きや音の重なり合いに関心を持ち、旋律を作る学習に主体的に取り組んでいる。	①リズム・パターン、旋律や音のつながりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 ②知覚・感受したことを基に、リズム、旋律やテクスチュアを工夫して、どのように旋律を作るかについて思いや意図をもっている。	①リズム・パターン、旋律や音のつながりを生かした音楽表現をするために、必要な音の組み合わせ方、記譜の仕方の技能を身に付けて旋律を作っている。

4 指導観

(1) 題材観

本題材は中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第2学年及び3学年〕A表現(3)ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること」を実現させるための題材である。

〔共通事項〕は、(1)ア「リズム、旋律、テクスチュア」を中心に指導を行う。

本題材は、今までの学習内容を発展させ、循環コードの進行に合わせた旋律を創作する。循環コードとはある一定のコードが循環して何度も繰り返されるものを指す。様々な循環コードが存在するが、今回はその中でも一般的な進行のものを使用した。「カノン」(パッヘルベル作曲)をはじめとして生徒たちが親しみを持ちやすい様々な音楽で使われている。

[和音記号：I－V－VI－III－IV－I－IV－V]

本題材では、ソプラノ・リコーダーを使用して、和声の響きに合わせた旋律創作を学習する。和音の響きや旋律の重なりから感じられる音楽の美しさやよさを感じて作品を作るとともに、作品全体の構成にも着目させて創作活動ができるように指導したい。

(2) 教材観

ア 生徒作品

生徒が容易に作品を作れるように、使う音、使うリズム・パターンを限定し、そこから選択することで創作ができるようにした。

イ 参考作品

- ・カノン (パッヘルベル作曲)
- ・勇気100% (松井五郎 作詞 馬飼野康二 作曲)
- ・Dragon Night (Fukase 作詞・作曲)
- ・TOMORROW (岡本真夜・真名安樹 作詞・作曲)

生徒が聴いたことのある音楽作品を中心に、循環コードを使用しているもので曲想に違いのある作品を選んだ。授業内では、循環コードの部分のみを抜粋して聴かせ、循環コードが使用されているという共通点、旋律のリズムや速度などの相違点から生まれるそれぞれの曲想の特徴やよさについて感じ取ることができるように指導したい。

オ 循環コードの演奏CD

生徒が創作をする時に、循環コードの演奏をピアノで行ったものをCDに録音して、授業中に使用する。循環コードの演奏（以下、伴奏）を聴きながらそれに合わせて音を出して創作した旋律を演奏することで、生徒は伴奏との関わりを感じ取って創作をすることができる。

<循環コードの演奏譜>



<グループでつくった旋律、生徒それぞれが作った旋律の例>

↓「グループでつくった旋律」も並べて書いて、どんな感じにかかわっているか考えておこう!

ドレミ	ド	シ	ソ	ラ	ソ	シ	ド	ド	ファミ	レド	ド
旋律のリズム	♩	♪♪	♩	♪♪	♩	♩	♩	♩	♪♪	♪♪	○
ドレミ	ドレミド	レソ	ラシド	ラシ	ファミ	ファミ	ファミ	ファミ	ファミ	ファミ	ファミ
旋律のリズム	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	♪♪	○

↑この旋律が、「自分がつくった旋律」の完成形です☆

5 年間指導計画における位置付け

第2学年及び第3学年の創作の学習は、〔共通事項〕との関連を図りながら、言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくる能力、表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めていくことを目標としている。

第1学年	第2学年	第3学年
<p>○言葉のもつリズムを生かして、簡単な旋律を作ろう (3時間)</p>	<p>○箏の様々な奏法を生かして、効果的な合いの手を創作しよう (2時間)</p>	<p>○曲全体の構成を考え、反復、変化、対照を利用してチャイム音楽を創作しよう</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉とリズムを当てはめる学習を行い、リズムに関する基礎的な読譜能力を付けるための学習をする。 ・4小節程度の短い旋律を、言葉とリズムを当てはめて創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の様々な奏法を学習して、その特徴を知覚・感受する。 ・「さくら さくら」、「うさぎ」などの旋律に合わせて、様々な奏法を効果的に組み合わせ合いの手を創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでハンドベルを使用してチャイム音楽のテーマを創作する。 ・テーマを反復、変化、対照させる活動を行いながら、個人で4～8小節程度のチャイム音楽を創作する。
<p>○曲全体の構成を意識して、リズムの組み合わせを考えて創作しよう (3時間)</p>	<p>○循環コードの響きを感じ取り、音の重なりを味わって旋律を作ろう (本題材、3時間)</p>	<p>○コード進行に合わせて、イメージをもって旋律を作ろう (3時間)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボディー・パーカッションの創作を個人・グループで行い、全体の構成や反復、変化、対照を意識した創作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・循環コードを聴いて、グループで一つの旋律を創作する。 ・個人で旋律をつくり、合わせて演奏することで生まれる響きを感じながら創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ提示した16小節のコード進行の音楽を聴いて感じたイメージをもとに、リコーダーで旋律を創作する。

6 題材の指導計画と評価計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	■評価規準 (評価方法)
<p>◆循環コードでつくられている音楽を聴き、その雰囲気や和声進行に関心をもち、主体的にグループによる創作活動に取り組む。</p>		
<p>1 (本時)</p>	<p>○循環コードで作曲されている曲を聴き、曲想を感受し、同じ和音の繰り返しで作られていることを知覚する。</p> <p>・循環コードで作曲されている様々な曲を聴いて、共通点を探して話し合う。</p> <p>・旋律の特徴やリズム・速度によって曲想が変化することを話し合って確認する。</p> <p>○3人組になり、リコーダーで音を出しながら、グループで4小節の旋律を創作する。</p> <p>・和音に含まれている音の中から任意の音を選び、2分音符のみを使用して4小節の旋律を作る。</p> <p>・2分音符のみを使用してつくった4小節の旋律を、循環コードの演奏（以下、伴奏）に合わせてリコーダーで演奏し、一部分のリズムや音を変化させる。</p> <p>○創作した旋律を伴奏に合わせて演奏し、工夫の効果を知覚し、雰囲気の変化したのかを感受する。</p> <p>・演奏を聴いて気付いたことをワークシートに記入した後、話し合っ全体で共有する。</p>	<p>■和音の響きや音の重なりに関心をもち、旋律を作る学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>ア①（活動観察、ワークシート）</p>
<p>◆創作した旋律を演奏したり聴いたりして、リズム・パターン、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。</p> <p>◆知覚し感受したことを踏まえて、個人で4小節の旋律を作る。</p>		
<p>2</p>	<p>○前時で創作した旋律（以下、グループでつくった旋律）を伴奏に合わせて演奏し、工夫点や特徴の確認をする。</p> <p>・グループで作った旋律と伴奏に合わせて、個人で旋律を創作することを、全体で模範演奏を聴いて確認する。</p> <p>○例を示して、反復、変化を聴き合い、どのような雰囲気の商品になるか知覚・感受する。</p> <p>・反復や変化の方法を、ワークシートに記述されている模範の楽譜を参考に記入し、リコーダーで演奏しながら全体で共有していく。</p> <p>○伴奏とグループで作った旋律の演奏を聴きながら、それに響きを合わせて自分自身の旋律を作る。</p>	<p>■リズム・パターン、旋律や音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。</p> <p>イ①（活動観察）</p>
<p>◆前時で創作した旋律について、リズム、旋律、テクスチャを工夫して、どのように旋律を作るかについて思いや意図をもって試行錯誤して旋律をつくる。</p> <p>◆リズム、旋律、テクスチャを生かした音楽表現をするために、必要な音の組み合わせ方、記譜の仕方技能を身に付けて旋律を作り、リコーダーの演奏を発表する。</p>		

3	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習の振り返りとして、伴奏を聴き、グループで作った旋律を演奏する。 ○各自が創作した旋律を、中間発表として演奏し、工夫点や改善点を話し合う。 ・各自が創作した旋律を発表し、全体のイメージと、工夫点や改善点に関してお互いにアドバイスをし合い、ワークシートに記入する。 ○中間発表で気付いたことを基に、更に試行錯誤しながら作品を作る。 ・どのような作品にしたいか考えながら、自分がイメージした旋律になるようにリズムや音高、和音との関わりや構成を工夫して、リコーダーで音を出しながら作品を作りワークシートに記入する。 ○できあがった作品を発表会形式で演奏発表し、学習のまとめをする。 ・発表を聴いた生徒は、気付いたこと等を発表する。 ・学習のまとめをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■知覚・感受したことを基に、リズム、旋律やテクスチュアを工夫して、どのように旋律を作るかについて思いや意図をもっている。 イ②（ワークシート、発表） ■リズム・パターン、旋律や音のつながりを生かした音楽表現をするために、必要な音の組み合わせ方、記譜の仕方の技能を身に付けて旋律を作っている。 ウ①（ワークシート、発表）
---	--	--

7 指導に当たって

(1) 「学ぶ意欲を高める評価」という視点から

授業内で配布するワークシートに個人の評価基準を文章で明記し、その内容に見合っているかどうかを生徒自身も判断することができるように工夫をする。

(2) 「学ぶ意欲を高める授業」という観点から

ア 3人組のグループ活動を取り入れた。生徒同士が協力して教え合い学び合う活動を通して、達成感を高める学習活動を展開できるようにしたい。また、最終的にそれぞれが作った旋律を合わせて演奏することにより、合わせて演奏する喜びを味わわせる。

イ 教室内の配置として、ホワイトボード（生徒が共有して使う作業用として活用）・生徒の机・教師が使用するキーボードの配置を工夫し、生徒が学習しやすい教室環境を整える。

8 本時（全3時間中の第1時間目）

(1) 本時の目標

循環コードで作られている音楽を聴き、その雰囲気や和声進行に関心を持ち、主体的にグループによる創作活動に取り組む。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入	<p>○循環コードで作曲されている曲を聴き、曲想を感受し、同じ和音の繰り返しで作られていることを知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環コードで作曲されている様々な曲を聴く。 ・共通点を探して話し合う。 <p>・旋律の特徴やリズム、速度によって曲想が変化することを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、循環和声で作曲されている部分のみを聴かせて共通点が何かを探る。生徒がなかなか気付けない場合は、教師が伴奏のみをキーボードで演奏し、更に発問する。 ・循環コードによる作曲という共通点に気付いた後、「では曲の感じがそれぞれ違うのは何故だろう」という発問をし、今後の表現の工夫につなげられるようにする。 	
展開	<p>○3人組になり、リコーダーで音を出しながら、グループで8小節の旋律を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音に含まれている音の中から任意の音を選び、2分音符のみを使用して4小節の旋律をつくる。 <p>・2分音符のみを使用してつくった4小節の旋律を循環コードの伴奏に合わせてリコーダーで演奏し、一部分のリズムや音を変化させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を口頭で発問し、本時で達成したいことを生徒に認識させる。 ・教師が模範を掲示し、生徒はそれを確認してから創作活動を始めるように指示する。 ・班で話し合いながら、音を選ぶように指示をする。ホワイトボードを使い、生徒が選んだ音を書き込めるようにする。 ・2分音符のみを使用して作った4小節の旋律の演 	

		奏をし、更にどのような雰囲気にしたかを班で話し合いながら変化させるように指示する。 ・4分音符を使って旋律を作ってもよいこととする。	
まとめ	○創作した旋律を伴奏に合わせて演奏し、工夫の効果を知覚し、雰囲気の変化したを感受する。 ・演奏を聴いて気付いたことをワークシートに記入した後、話し合っ全体で共有する。	・音を選ぶだけで旋律ができること、選ぶ音が変わると旋律の雰囲気も変化していくことを振り返らせる。	■和音の響きや音の重なりに関心を持ち、旋律を作る学習に主体的に取り組んでいる。 ア①（活動観察、ワークシート）

(3) 板書計画

<p><今日の目標> 3人で協力して伴奏に合う旋律を作ろう！</p>		<p><今日の予定></p> <p>①いろいろな曲を聴く</p> <p>②[和音と低音の響き]を聴く</p> <p>③3人で旋律の音を作る (演奏確認)</p> <p>④作った旋律のアレンジ (演奏確認)</p> <p>⑤振り返り</p>
<p>生徒の共有スペース</p> <p>旋律を書けるように拡大したワークシートの一部を掲示する。</p>	<p>教師の模範・作業の手順が分かるように拡大したワークシートを掲示する。</p>	